

## 「秋田市食品ロス削減推進計画」(素案)に対する意見と本市の考え方

- 1 期間 令和4年12月16日(金)から令和5年1月16日(月)まで
- 2 件数 24名43件(内訳:市民100人会24名)

### 第1章 計画の基本事項

No	意見	意見に対する市の考え方
1	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素晴らしい計画であり、ぜひすすめてほしい。</li> <li>・今回の資料を読んで、知らないことがたくさんあり、目を見開かされる思いがした。世界の現状を鑑みるまでもなく、食品ロスをなくすために、一層の努力をしようと思った。</li> <li>・一般の食品ロスをなくすためには、とにかく地道な啓蒙活動が第一だと思う。広報、マスコミ等を活用して「刺激」してほしい。</li> </ul>	<p>本計画に基づき、市民や事業者を対象とした啓発事業などを含めた各種推進施策を効果的に実施し、引き続き食品ロスの削減に向けて取り組んでまいります。(環境都市推進課)</p>
2	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家庭においても、食品の無駄を無くす・減らすことは子供への教育上としてもとても大切なものと捉えており、市としてこういった計画を策定することはとても意義のあることと考えております。</li> <li>・また、所得の向上が難しい経済情勢の中で物価が値上がりしてしまっている昨今において『食品ロス削減』は家計を守る手段でもあると思います。</li> </ul>	<p>食品ロス削減に向け、子どもに対する教育により、親子一緒になって取り組む施策が重要であると捉えており、今後も引き続き実施してまいります。</p> <p>また、現在の物価高を要因として、食品との向き合い方を見直さざるを得ない状況ですが、こうした経済状況が落ち着いた後も継続して食品ロス削減に取り組んでいただけるよう啓発等を進めてまいります。(環境都市推進課)</p>
3	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス削減の啓発・情報発信をこまめにわかりやすく提供する。市民にはこれが有効と思う。</li> <li>・バイオエネルギーとして利用する為の方法をさらに深めて研究開発して頂きたい。</li> </ul>	<p>本計画に基づき、市民や事業者を対象とした啓発事業などを含めた各種推進施策を効果的に実施し、引き続き食品ロスの削減に向けて取り組んでまいります。</p> <p>また、発生してしまった食品廃棄物についても、資源として有効に活用できるよう、堆肥化などの事業を実施しながら、バイオガス化などの先進事例も含めて調査・研究を進めてまいります。(環境都市推進課)</p>
4	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の輸入も消費するであろうことを当然予想しての輸入ではあると思うが、結果ロスをどう消化するか。</li> <li>・米を例に挙げると古米がたくさんあると聞く。しかし米余りなのに海外からの輸入。全てお互いさまではあるかも知れないが、個人としては納得がいかない。納得できる説明がほしい。</li> </ul>	<p>食品を大量に輸入し大量に廃棄している状況は改めなければならない課題の一つとして食品ロス削減推進法が成立したものと捉えております。</p> <p>ご指摘の「古米」など、食品それぞれの特性により食品ロスとなりやすい状況が異なるものと考えております。いただいた意見については、今後の参考とさせていただきます。(環境都市推進課)</p>

No	意見	意見に対する市の考え方
5	<p>P 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス削減は2030年までに国際的に目標が設定されていることが資料からわかり、2030年まで目標を達成するには簡単でないことが予想できた。素案内容に加え、さらに強制的対策もある程度必要ではないか。</li> <li>・他国の取組をみると、フランスでは一定規模以上のスーパー等に対して売れ残り品の食品廃棄禁止法が施行されている。同じ対策をするには問題点は多いと思うが、社会情勢で物価も上がっていく中で家計を考えるとおのずと消費できる分だけを買う流れになり、食品ロス対策のためのルールも今までよりも受け入れ易くなると思う。</li> </ul>	<p>食品ロス削減について、廃棄物減量という視点で見れば、ごみの排出量に応じて経済的な負担をいただく家庭ごみの有料化を既に実施しており、その発生抑制を進めているところであります。</p> <p>他国の事例については、調査し施策の検討の参考にさせていただきます。</p> <p>また、現在の物価高を要因として、食品との向き合い方を見直さざるを得ない状況ですが、こうした経済状況が落ち着いた後も継続して食品ロス削減に取り組んでいただけるよう啓発等を進めてまいります。（環境都市推進課）</p>

## 第2章 現状と課題

No	意見	意見に対する市の考え方
6	<p>P 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年から家庭ごみの処理手数料を徴収したことにより、家庭ごみが減少したことは理解しましたが、徴収した手数料は何に使われているのか情報提供して頂きたい。</li> </ul>	<p>家庭ごみ処理手数料は、ごみ処理の経費であるごみ収集運営費に充当しております。</p> <p>この手数料収入と同額の手数料相当額については、秋田市廃棄物および再利用に関する条例に基づき、おおむね2分の1を一般廃棄物処理施設整備基金に積立て、その余の額を家庭ごみの減量のための対策事業その他の環境対策事業に充当しています。</p> <p>こうした手数料相当額の使いみちについては、条例に基づき市の広報誌やホームページなど機会を捉えて公表することとしており、今後もわかりやすい周知に努めてまいります。（環境都市推進課）</p>
7	<p>P 7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少と市が市民税から負担しているごみ処理経費の関係の説明は不十分と思います。今までよりごみ排出量、とくに食品ロスを減らすには市民の協力を得るためにその関係を明確にしておくことが必要があると思います。</li> </ul>	<p>人口については、今後人口減少が進むことから、市から発生する食品ロス量（廃棄物量）は必然的に減少することを示すために記載しているものです。こうした人口減少下で、施策の効果を把握するためには、一人1日当たりでの発生量によってその状況を把握することが必要であるという考え方の前提を示したものであります。</p> <p>一方でごみ処理経費については、近年ごみ処理にかかる経費が増えてきていることに加え、食品ロスとして発生する廃棄物が減少すれば、その減少量に応じて処理経費が減るといった考え方の前提を示したものであります。</p> <p>ごみの減量や食品ロスの削減を進めるためには、市民の協力を得ながら、効果的な施策を進めていく必要があると考えており、引き続きわかりやすい周知に努めてまいります。（環境都市推進課）</p>

No	意見	意見に対する市の考え方
8	<p><b>P10</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭ゴミの組成調査や食品ロス実態調査を実際に行っていることは大変大事なことで、よくやっているしこれからも続けてほしいと思う。</li> <li>・私は60代後半ですが、これまでの自分の家庭の食品ロスについて取り組んできたことや実態について参考までに述べてみます。</li> <li>・食品も含めたゴミの削減を大きく意識し始めたのは、2000年代に入ってからのことのように思います。ゴミの分別はもちろん、生ゴミの削減をしようとEMを使った肥料化にも取り組みましたが、毎日の作業が大変で途中で挫折してしまいました。フルタイムで勤めていて時間に追われる毎日だったので続けることは困難でした。まだ子育て中で、買い物の量も多くまとめ買いもしていたので、なるべく賞味期限の長いものを買っていました。調理にも十分な時間は割けず食品が足りない困るので多めに買っていたと思います。忙しさから余った食材の点検も大雑把でしたので、今よりは多く食品ロスを出していたと思います。</li> <li>・今は子どもたちも巣立ち仕事もリタイアし、時間に余裕があり夫婦二人きりで食べる量も減ってきているので、その日食べるものは消費期限や賞味期限ギリギリの品物も買うようになりました。</li> </ul> <p>・冷蔵庫のない時代、夏は半分悪くなりかかったご飯に水をかけて悪い部分を洗い流して食べたり、冬はカビの生えた餅のカビを取り除いて食べたりしたので、今でも賞味期限を過ぎても食べられるかを判断してなるべく残さないようにしています。ただ、今の若い人たちは賞味期限が過ぎたものは食べられないものとしての認識があり、気持ち悪がるので出すことはできません。(年取っていてもそういう方はいますが)食品が悪くなると匂いや見た目や味がどうなるのかを体験していないことも判断できない理由の一つかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品で、今自分が出しているゴミは、「①頂き物で口に合わなかった」「②食品を買うときに必要量に合う物がなく(パックや袋で買うことが多い)、多く買って処理切れなかった」「③②との関連もあるが、量が足りないと申し訳なく思い多く作ってしまい食べ切れなかった飽きてしまった」などがあげられます。近くに親しい親戚や知り合いなど遠慮なく付き合える方がいればお裾分けもできるでしょうが、そういう方もいないので難しいです。季節的なものとして、「④正月やお盆などで子どもたちが帰省したときに食べきれずに残ってしまった」もあげられます。</li> <li>・食品ロスも育った環境や年代、家族構成や家庭状況などによっても違うし、同じ家族でも変化があります。そういうことも加味してこれからも実態調査をして食品ロスの変化に対応して取り組んでいってほしいと思います。</li> </ul>	<p>家庭ごみ組成調査および食品ロス実態調査は、ごみ減量や食品ロス削減を進めるために、本市の現状を把握する基礎的かつ重要な調査であり、今後も引き続き実施していきたいと考えております。</p> <p>食品ロス削減に向けて求められる取組は、ご指摘のとおり年齢や家族構成、家族の状況、また同じ家庭でもライフサイクルによって異なってくると感じております。そうした認識の下、現在でも、市民一人ひとりに実施してもらいやすい取組を工夫しながら啓発しているところであり、引き続きそうした点を踏まえて事業を実施してまいります。</p> <p>ご紹介いただいた4事例による発生分析は、他者との関わり合いから発生してくるものと捉えており、食品ロス発生抑制に向けた視点の一つとして今後の事業運営の参考とさせていただきます。(環境都市推進課)</p>
9	<p><b>P11</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図表18に記載される推移が横ばいで家庭ごみに対する食品ロス実態調査は事業として今後必要なかは問われます。</li> <li>・環境省の指示からという事に察しつつ自治体のほうで、定期的に実態把握し、引き続き情報発信していただければ成果として評価されるのではないかと思います。</li> </ul>	<p>図表18については、縦軸の値が大きく変化がわかりにくいという意見を踏まえ、修正いたします。</p> <p>今後も、食品ロス実態調査の結果を活用し、内容をわかりやすく啓発資材に活用するなど、食品ロスの発生抑制に努めてまいります。(環境都市推進課)</p>

No	意見	意見に対する市の考え方
10	<p>P 1 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内でのロスには確かに多いと思うが、何といてもスーパー、コンビニなどのロスが断然多いと思うので、売上高には影響すると思うが、ロスを出すよりは早めの割引セールでかなり削減できるのではないか。また、そのロスをどう消化するか。</li> <li>・肥料や家畜のえさも良いがあくまでも人間の食物としてのものだから、先ずは人の為に人の健康を大事に思うことが先決ではないのか。</li> </ul>	<p>買ってすぐに食べる食品であれば販売期限が近いものから購入を促すことは、小売事業者における食品ロス削減に向け必要な取組であることから、市民に対しても「てまえどり」を啓発することにより、その発生抑制に努めてまいります。</p> <p>本計画では、食品ロスの発生抑制を進め、それでもやむをえず発生してしまった食品廃棄物については、堆肥化等により有効利用していくこととしております。（環境都市推進課）</p>
11	<p>P 1 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな取り組みをしていますが、これらの活動は私たち一般市民を啓蒙するには大切だと考えます。これからもいろいろな方法で続けてほしいと思います。</li> </ul>	<p>本計画に基づき、市民や事業者を対象として様々な媒体を活用して啓発事業を実施し、引き続き食品ロスの削減に向けて取り組んでまいります。（環境都市推進課）</p>
12	<p>P 1 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス削減に向け、市民1人ひとりを巻き込む啓発PRに取り組んで頂きたい。</li> </ul>	<p>本計画に基づき、市民や事業者を対象として様々な媒体を活用して啓発事業を実施し、引き続き食品ロスの削減に向けて取り組んでまいります。（環境都市推進課）</p>
13	<p>P 1 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発キャンペーンについては、小学校、中学校の授業で行ったらよいと思います。子供から家庭に広がるのが期待でき、親の意識も高まると思います。</li> </ul>	<p>食品ロス削減に向け、子どもに対する教育活動を通して親子一緒になって進める施策が重要であると捉えており、現在も啓発事業を実施しているところです。小中学校の授業においての食品ロス啓発事業については、今後検討してまいります。（環境都市推進課）</p>
14	<p>P 1 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発資料の「非常食も残り野菜も使いきりレシピ集」「まずは、冷蔵庫からもったいないを見直そうBOOK」「まるごと食べきり野菜活用ハンドブック」を一世帯へ各一冊配布してほしい（お金はかかるが）。資料を見た事がなく、あれば活用できる事も多いと思う。</li> </ul>	<p>啓発資料については、食品ロス削減イベント等で配布しているほか市ホームページ上で電子データを公開しております。</p> <p>現在これらの啓発資料を全世帯に配布する考えはありませんが、その内容が市民一人ひとりに伝わるよう、イベントに加え、広報あきたや動画などの様々な媒体を活用して周知に努めてまいります。（環境都市推進課）</p>
15	<p>P 1 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードバンク活動への提供についてはよく知らないなので、これからも勉強していかねければと思います。</li> <li>・また、食べ残しの有効利用については、堆肥化などやってみたい気持ちはあるのですが、体力気力が衰える年代になり続けられるか自信がなく、なかなか取り組めないでいます。一人一人が自覚をして取り組む事が大事なことはわかっていますが、好き嫌いや食べ方（例えば魚の身や皮の取り方、私の父親が残すのは本当に骨だけでしたが、私たち夫婦はなかなかきれいに食べられません）食習慣を変えるのも難しいと感じていますが、これからも啓蒙活動で市民を刺激し続けてください。</li> </ul>	<p>今後も、食品ロスの発生抑制を進めた上でも、発生してしまった食品廃棄物については、焼却処理されるのではなく、堆肥化等により有効利用されるよう、コンポスターや電気式生ごみ処理機の購入費用の補助事業を実施してまいります。</p> <p>また、こうした機器を購入した方も堆肥化等を継続して実施していただけるよう、動画等により使用方法のポイントなどを周知してまいります。（環境都市推進課）</p>

No	意見	意見に対する市の考え方
16	<p>P 1 7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>賞味期限の近い商品を購入する取り組みが進んでいないとあるが、食品ロスを考えると、取り組めないことだと思うので、違う分析の方がいいと思う。</li> </ul>	<p>買ってすぐに食べる食品であれば販売期限が近いものから購入を促すことは、小売事業者における食品ロス削減に向け必要な取組であることから、市民に対しても「てまえどり」を啓発することにより、その発生抑制に努めてまいります。（環境都市推進課）</p>
17	<p>P 1 6～P 1 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民意識（我が家で心がけていること）として、多少買いすぎ、作りすぎがあっても捨てず、一緒にまとめて、週一度位はおじやにして食べ、家族にも好評。</li> <li>野菜くずなどはその都度冷凍して置き、ある程度まとまったら、煮出してスープを作り、味噌汁やカレーに利用している。スープを取った後は庭の植物に支障のない隅に穴を掘り、肥料として埋めるので、冬期間以外の生ゴミはほとんどない。</li> </ul>	<p>食品ロス削減に向け、ご紹介いただいたような取組を一人でも多くの市民に共感し実施してもらうことが重要だと考えております。引き続き、食材の使い切り方法を掲載した啓発資料等を活用し、市民周知に努めてまいります。（環境都市推進課）</p>
18	<p>P 1 6～P 1 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が家では、スーパーで買い物時に「手前取り」に協力しており、ロスはないように1～2日分しか買わないようにしている。→ロスはゼロに近い。</li> <li>現在、食品の価格が上がっており、ほぼ全家庭で買う量などは考えていると思うのでロスは減っていくと思われる。</li> </ul>	<p>「てまえどり」の実施や買物の工夫により、食品ロス削減を実践するライフスタイルについては、多くの市民に無理のない範囲で実施していただきたいと考えております。こうした視点も踏まえた周知啓発に、今後も取り組んでまいります。また、現在の物価高を要因として、食品との向き合い方を見直さざるを得ない状況ですが、こうした経済状況が落ち着いた後も継続して食品ロス削減に取り組んでいただけるよう啓発等を進めてまいります。（環境都市推進課）</p>
19	<p>P 1 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フードバンクは秋田市にどれくらいあるのか。</li> <li>需要と供給は合っているのか知りたい。</li> <li>身近でフードバンクがあるところを知らないの、情報提供をする活動があってもいいと思う。</li> <li>生ごみ処理機購入で補助金がでる自治体があったように思うが、秋田市では制度はないのか。</li> <li>生ごみ処理機の価格やサイズ、活用している家の紹介などをしてほしい。</li> </ul>	<p>本市では、『一般社団法人フードバンクあきた』と『特定非営利活動法人たすけあい ネットあゆむ』がフードバンク活動をしていると認識しておりますが、他にも実施している団体等があるものと考えております。各団体の活動状況等については、それぞれがPR活動をしておりますが、本市でも周知を図ってまいります。（福祉総務課） 本市においても、コンポスターや電気式生ごみ処理機の購入費用の補助事業を実施しているところであります。この補助事業を活用して、発生してしまった食品廃棄物を資源として活用する市民を増やすことができるよう、いただいた視点も踏まえながら、今後もその周知に努めてまいります。（環境都市推進課）</p>
20	<p>P 1 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食べ残しによるフードロスの多さに驚いた。</li> <li>自分はお中元、お歳暮などのいただきものを処分することが多かったが、フードバンクでは出品できない物（お酒など）もあるので、フードバンクで扱えるものが多少幅が広がれば助かると思う。</li> </ul>	<p>フードバンクあきたでは、冷凍食品やお酒類など、取扱が難しい物は受け入れしていないようです。取扱品目について、各団体によって異なると思われますので、ご理解くださるようお願いいたします。（福祉総務課）</p>

No	意見	意見に対する市の考え方
21	P 1 9 ・写真で食品の多さに驚いたが、どれくらいの世帯から出た量なのか記載されていると多いのか、少ないのかの目安になるのではないか。	P 1 9 図表 3 9 掲載の食品ロスは、家庭ごみ 1 0 0 袋の開封調査による結果となっております。ご指摘を踏まえ、調査の実施規模について、図表 3 9 の説明文に追記いたします。（環境都市推進課）

### 第3章 計画の目指すもの

No	意見	意見に対する市の考え方
22	P 2 0 ・各主体の役割目標、また推進施策の基本方針が細かく書かれていてその施行管理の難しさが分かった。	本計画では、基本理念の実現および目標達成に向けて、基本方針を示し、各主体が期待された役割を実践すること、推進施策に基づきそういった各々の取組を後押しすることが必要であることを記載しております。本計画策定後は、進捗管理により状況を点検・評価し、食品ロス削減に向け取り組んでまいります。（環境都市推進課）
23	P 2 0 ・買ったけど食べない、頂いたけど食べない食品が結構あるので、フードドライブの取り組みがもっと広がれば良いと思う。実施しているスーパーに持ち込んだことがあるが、普段利用している家から最も近いスーパーでは回収を行っていないので、もっと多くの場所で未利用食品を回収してくれると良いと思う。	市では、本庁舎（年 2 回）のほか、各市民サービスセンター（常時）に回収箱を設置しております。フードバンクあきたでは、イオンやマックスバリュなどにもボックスを設置しておりますので、ご協力をお願いいたします。（福祉総務課）
24	P 2 0～P 2 2 ・食品ロスの意識は、皆さんそれなりに分かっているように思いますが、具体的に取り組むとなると自分のこととして難しいと実感しています。 ・特に仕事をしていた時はまとめ買いをしていましたので、買った時の気分と日常生活の中の意識に誤差が生じ、食品を余らせてしまうことがありました。母が畑で作っている野菜のことを忘れ、購入して注意されたり、今は広告とにらめっこしながら以前よりは、食品の循環がよくなった気がします。まとめて買うものと日常的に買うものを分けられるようになってきました。 ・また、スーパーでも消費期限で安売りしている物もチェックして、買っています。 ・最近、物価高になり、消費者も特に高齢者は、品定めしながら買っているのではないかと思います。 ・また、コロナで以前より大勢の宴会も少なくなっていると感じますが、逆にコロナのため、残った食材の持ち帰りは禁止となっているようです。お酒が入る入らないかで、宴会参加者の食事の進み方が違うと思いますが、皆さんが意識して、豪華な食事というよりは適度な食事文化が根付いてほしいですね。	一人暮らしを始めたばかりの大学生や現役勤労世帯、育ち盛りの子どものいる世帯や子育て卒業世帯高齢者世帯など、それぞれの年齢や家族構成で食品に対する向き合い方は異なっており、それぞれ食品ロスが発生してしまったりしやすい場面があると考えております。そうした状況の違いも踏まえて、すべての市民が食品ロス削減に向けて取り組んでいけるよう、今後も事業実施に努めてまいります。 期限の迫った値引きされた食品を購入する行為は、食品ロス発生抑制につながる簡単かつ重要な取組であることを引き続き周知してまいります。 また、現在の物価高を要因として、食品との向き合い方を見直さざるを得ない状況ですが、こうした経済状況が落ち着いた後も継続して食品ロス削減に取り組んでいただけるよう啓発等を進めてまいります。 宴会等の最初の 3 0 分間と最後の 1 0 分間を食事に集中する「食う～べえタイム」など「もったいないアクション」の普及啓発を進めるほか、消費者が食べきれぬ量を選択できるような仕組みを事業者で導入できるよう食品ロス発生抑制の啓発を進めてまいります。（環境都市推進課）

No	意見	意見に対する市の考え方
25	<p>P 2 0</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規格外の野菜等を困っている方々へ届ける、また通常の商品の価格が下がらないようにした上で流通させ希望する方に安く提供する仕組みを考える。</li> <li>・生ゴミを分別とする。</li> <li>・庭のある家庭では原則、生ゴミをコンポストで処理することとする。(私は30年ほど前から生ごみをコンポストで処理している。虫が発生するが、ミミズが堆肥にしてくれます。)</li> <li>・市で回収した生ゴミでバイオガスを発生させて活用(ナチュラルエナジージャパン社のように)したり、また堆肥を作成できないのか。</li> <li>・認知症の老人が食品を多量に買い込みをしている事等への問題解決の広報活動をする。</li> </ul>	<p>規格外農産物等の流通については、まとまった量の確保が難しいなど様々な課題がありますが、先進事例などを参考としながら、有効活用につながる仕組みについて検討してまいります。(産業企画課)</p> <p>本市では、コンポスターの購入費の補助事業に加え、庭などの敷地がない家庭でも発生してしまった食品廃棄物を有効利用できるように、電気式生ごみ処理機の購入費の補助事業も実施しております。今後も、まずは食品ロスの発生抑制に向けて啓発を進め、やむをえず発生してしまった食品廃棄物については、堆肥化等により有効活用されるよう取り組んでまいります。</p> <p>生ごみの分別収集については、新たに生ごみを分別するなど市民負担が増えることに加え、収集運搬費用の増加や発電事業者に支払う処理費用などの課題があると捉えており、まずは食品ロスの発生抑制による食品廃棄物の発生抑制を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また今後も、年齢に応じて食品ロス対策として求められる対策が異なってくる点を踏まえた施策を講じてまいります。(環境都市推進課)</p>
26	<p>P 2 0、P 2 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内に置き場所や庭などが無く、堆肥を作る意義は感じません。</li> <li>・アイデアとして、大きなコンポスターを各ごみ置き場に置いて、市民がそこに家庭で出る生ごみを捨てます。</li> <li>・市がコンポスターを収集し、堆肥化やバイオガス化の資源として活用するという仕組みがあれば多くの市民が使うと思います。</li> </ul>	<p>本市では、コンポスターの購入費の補助事業に加え、庭などの敷地がない家庭でも発生してしまった食品廃棄物を減量または有効利用できるように、電気式生ごみ処理機の購入費の補助事業も実施しております。今後も、まずは食品ロスの発生抑制に向けて啓発を進め、やむをえず発生してしまった食品廃棄物については、堆肥化等により有効活用されるよう取り組んでまいります。</p> <p>いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。(環境都市推進課)</p>
27	<p>P 2 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規格外となった野菜や果物等を積極的に購入したいと思うが、これをサイトで購入できるようにしてもらえたら利用しやすい。</li> <li>・また、サイト購入以外を希望する方向けにも市内の至る場所で購入可能になってくれることを望む。この頃新しい直売所を見かけて嬉しくなった。</li> </ul>	<p>いただいたご意見は、規格外農産物等の有効活用の手法のひとつとして、参考とさせていただきます。(産業企画課)</p>
28	<p>P 2 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードバンクの取り組みは行政の後押しで町内会の協力を得て大々的にできないか。</li> </ul>	<p>フードバンク活動への支援については、ニーズなどを調査しながら、支援の方法等、今後研究してまいります。(福祉総務課)</p>

No	意見	意見に対する市の考え方
29	<p>P 2 3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田市食品ロス削減推進計画（素案）は現状と課題・目標・推進策など良くできた計画と理解した。しかし、P 2 3の家庭系食品ロス量目標値が令和元年80.3グラムから令和12年60.0グラムと厳し過ぎて計画倒れにならないか心配。少し緩めて達成感を味わう方が良いと思う。</li> <li>・計画達成には、偏（ひとえ）に秋田市民の参加が大切。特に食品ロス削減は市民1人ひとりの参加が必要で食品ロスについての啓発情報発信活動を地道に継続願う。</li> </ul>	<p>家庭系食品ロスの目標値につきましては、ごみの減量目標（令和7年度まで一人1日当たり480g）と整合を図り、令和12年まで60gと設定したものであり、啓発や取組を進めていくことで、達成可能な値と考えております。また、一人1日当たりで見ると、全国の値に比較して、本県本市の値は現状で高い水準であり、本計画による施策の展開により、食品ロスの削減を進めてまいります。（環境都市推進課）</p>
30	<p>P 2 3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均と比べると、秋田県や秋田市の食品ロスは多いと思いますが、「令和12年度までの目標が25.3パーセント削減」の根拠は何でしょうか。</li> <li>・国や県を参考にして立てた目標だと思われませんが、実現可能でしょうか。食品ロスの発生量を国と県を比べると（P 9）食べ残しのパーセンテージはあまり変わらず、直接廃棄は国より5パーセント低く、過剰除去が4パーセント高くなっています。県の場合、過剰除去を減らす事が目標の一つになりそうですが、秋田市に特徴的な廃棄食品はあるのでしょうか。そこも是非検討をお願いできればと思います。</li> </ul>	<p>ご指摘のとおり全国平均に比べると本県本市の食品ロスは多い状況です。こうした状況であることから、まずは全国平均より上回る削減率を設定することが必要であると考えております。そうした上で、食品ロスを算定する前提数値であるごみの減量目標（令和7年度まで一人1日当たり480g）との整合性を図り、現在の啓発や取組を進めていくことで、達成可能な値として計画記載の削減率を設定したものであります。</p> <p>本市の食品ロスの状況は、実態調査の結果、野菜が特に多く排出される状況であることから、P15記載啓発資料「まるごと食べきり野菜活用ハンドブック」を製作し、その活用方法を啓発しているところであり、こうした点についても、引き続き啓発周知のポイントとし取組を進めてまいります。（環境都市推進課）</p>
31	<p>P 2 3、P 2 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国、県と秋田市がどのように異なり、目標値を設定したのか具体的に示すべきでないか。（目標値ありきのように思う。）</li> </ul>	<p>目標値設定にあたっては、計画P23P24に記載のとおり、国の値に比べて、本県本市は多いという現状認識のもと、その削減率を上回る目標値の設定が必要であることが考え方の基本になっております。そうした認識を前提に、ごみの減量目標（令和7年度で一人1日当たり480g）等との整合を図り、計画記載の目標値を設定したものであります。（環境都市推進課）</p>
32	<p>P 2 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業系食品ロス目標値は、もっと高くすべきと思う（せめて50%に近づきたい）。意識を高めないと実現がむずかしいのでは。例えば、罰則に当たるものを作るなどして</li> </ul>	<p>いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p> <p>計画策定により、市民・事業者・行政の自発的な活動により、食品ロスを削減していきたいと考えており、罰則を設けることは考えておりません。（環境都市推進課）</p>



#### 第4章 推進施策

No	意見	意見に対する市の考え方
33	<p>P 2 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス削減の啓発・情報発信で食品関連事業者への強引な呼びかけは判断が難しく食品サプライチェーン大手はリスクマネジメントの観点から一般的に敬遠される要素もあります。</li> <li>・事業負担をかけさせて物流に至るまで生産に影響を及ぼします。</li> </ul>	<p>食品ロス削減に向けて、食品関連事業者においてサプライチェーン全体で取り組むことが必要であり、製造卸売小売それぞれの立場で課題が異なることから、事業負担にならない範囲で、取組を進めていけるよう啓発等に努めてまいります。（環境都市推進課）</p>
34	<p>P 2 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでも、もったいないアクションやてまどりなど様々なキャンペーンを行っていることは知っているが、市全体として見ると、盛り上がりに欠けているように思う。スーパーなどの小売店でステッカーや幟（のぼり）などを見掛けることもあるが、大部分の利用客はそれらを見ることもなければ、実際の買い物で気にかける様子もない。</li> <li>・キャンペーン運動を展開する場所は、人々の往来が多い駅前や何かしらの食に関するイベントが行われるところなどが選ばれるが、それよりももっと日常生活に密接なところ、意識が向きやすいスーパーや飲食店などでも行った方が良いのではないかと思う。そうすれば、事業者も一緒に考える機会にもなるし、更には一体となってキャンペーンを行うことにより、SNSなどを見ない世代にもより一層訴えかけることができるのではないかと思う。</li> </ul>	<p>本市では、これまで食品ロス削減月間である10月を中心に様々な啓発キャンペーンを実施しているところであります。今後も、事業の実施に当たっては、一人でも多くの市民にその主旨が伝わるよう留意しながら進めてまいります。</p> <p>キャンペーンを展開する場所については、現在、イベント会場やスーパー等で、市職員のみならず関係事業者を巻き込みながら進めているところです。今後も、効果的なキャンペーンとなるよう、手法等について検討を進め、食品ロスの発生抑制を目指してまいります。（環境都市推進課）</p>
35	<p>P 2 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・永続的問題なので、食育推進は最も重要だと思ふ。</li> <li>・小中高校生を対象に長期休暇中に食品ロスについて考えて行動したことをポスター発表用として制作いただき、それに対してよいと思うポスター発表へ市民が投票し、その結果を秋田市より発表いただき、子供たちからの発信で理解を深めていくのもよいかと思う。</li> <li>・子供を巻き込むことは親を巻き込むことにも繋がる。</li> </ul>	<p>食品ロス削減に向けて、小中高校生を対象とした取組も重要であると考えており、いただいたご意見も手法の一つであると受け止めております。食品ロス削減は、全世代で取り組む課題であることから、現在も様々な取組を実施しているところですが、各世代に対してどのように実施したら効果的な手法となるか、さらに深掘りしながら事業を実施してまいります。（環境都市推進課）</p>

No	意見	意見に対する市の考え方
36	<p>P 2 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に勤務しており、学校給食について毎日思うところがあるのですが、食品ロスとの関連もあり、良い機会なので書かせていただきます。</li> <li>・毎日の給食から出る食品ロスが気になっています。</li> <li>・職員室の部分しか現状は見えていませんが、封も開けないパンや牛乳、デザートが通常のごみと一緒に捨てられています。</li> <li>・サキホコレの日でさえ、余ってしまった白米が大量に残飯としてまとめられて給食室へ戻されます。</li> <li>・いつも何とかならないものか気になるのですが、管理上いたしかたない事情もわかっています。わかっている上で、何とかしたいと考えます。</li> <li>・公会計になっているので予算上の実態までは分かりませんが、一方で苦しいはずが一方では新品を廃棄する現状です。コロナ禍が続く今、そろそろ本腰を入れて取り組むべきではないでしょうか。</li> </ul>	<p>学校給食は、児童生徒の成長期に必要な栄養素が摂取できるよう、文部科学省が示す「学校給食摂取基準」に基づき作られておりますが、ご意見の通り学校給食における食品ロスについては本市でも課題であると捉えており、今後も、食育を通じた食品ロス削減に向けた啓発活動や、先進事例の調査・研究に取り組んでまいります。（教育委員会学校教育課）</p>
37	<p>P 2 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードドライブを推進するために市役所等に常時、市民が食品を持ち寄れる場所（コーナー）を設置し、市民に周知をする。</li> </ul>	<p>フードドライブは、本庁舎では通年での場所の確保が難しく、年2回の実施となっておりますが、各市民サービスセンターでは、常時実施しております。（福祉総務課）</p>
38	<p>P 2 7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードバンク活動の理解を進める、災害時の備蓄食品とするなど非常にすばらしいと思います。ただし具体的にフードバンクにどのように協力するかなどの具体案が示されていないので、具体的な取り組みを今から考えてはどうかと思います。</li> <li>・美大生でも経済的な理由などで食品を事業者から寄付していただいているので、大学などの教育機関でもフードバンクの利用が今後、不可欠となってくるのではないかと思います。また、災害時の食品備蓄についても具体的な取り組み、計画が必要かと思う。</li> <li>・あまり急を要しない事業にこそお金をかけて下さい。</li> </ul>	<p>フードバンク活動については、市の施設の貸し出しなどの協力をしており、今後も継続してまいります。</p> <p>大学等の教育機関に所属する大学生等に対する食品の援助については、現在、フードバンクあきたが実施していることを把握しており、本市でも、寄付品の回収などの協力をしてまいります。（福祉総務課）</p> <p>災害時備蓄食品については、食品ロスの発生を抑制するため、賞味期限が迫る食品について、地域での防災訓練や講話等の際に、家庭内備蓄の啓発を目的として配布するなど有効活用しており、引き続きこうした取組を実施してまいります。（防災安全対策課）</p>
39	<p>P 2 7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田市民として情報共有するのは取組として課題ではありますが、「もったいないアクション」は県の方で消費者庁と更に連携協力しておりますので関係団体の推進は現状のままで良いかと思われまます。</li> </ul>	<p>食品ロス削減推進に向けて、様々な当事者と連携協力を強化していくことが重要であると考えており、今後も県や事業者との連携を進めてまいります。（環境都市推進課）</p>

No	意見	意見に対する市の考え方
40	<p>P 2 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭から出る生ごみを堆肥化すること自体は問題ないと思うが、この制度を利用できるのは堆肥を利用または処理できる環境にある人に限られると思う。自身もそうですが、敷地で家庭菜園が出来ない戸建て居住者や、集合住宅居住者には訴求力がないので、補助を利用したいと思わせるような対策もあると相乗効果が図れると思う。</li> <li>・少し論点がずれますが、集合住宅向けに試験的にコンポストを設置するなどの実証実験があれば、もしかしたらそこから話が広がって、各町内に集合コンポストが設置される・・・などとなればSDGsの観点からも良いかと・・・。</li> </ul>	<p>本市では排出してしまった食品廃棄物の資源としての有効利用を進めるため、コンポスターの購入費の補助事業を実施してまいりました。一方で都市化が進む本市において、庭などがない世帯や集合住宅世帯への対策が課題となってきたことから、令和元年度から、こうした家庭でも食品廃棄物を減量または有効活用できるよう電気式生ごみ処理機の購入費の補助事業を開始したところです。食品ロス削減については、まずはその発生抑制が重要ではありますが、発生してしまった食品廃棄物についても堆肥化等による有効活用が進むよう、こうした補助事業を引き続き実施してまいります。</p> <p>いただいたご意見については、今後の事業実施の参考とさせていただきます。（環境都市推進課）</p>
41	<p>P 2 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品廃棄物の堆肥化はとても合理的だと思います。ただ我が家は、畑があって使えるのですが、お花など針物に使う場合は、コンポスターが複数ないと活用が難しいと思いました。生ゴミが乾燥するまでの時間が必要です。また、生ゴミの発酵促進剤もそれなりの金額なので手間と経費を考えると定着はやや難しく感じています。</li> </ul>	<p>現在、本市では、コンポスターの購入費や電気式生ごみ処理機の購入費の補助事業を実施し、発生してしまった食品廃棄物の有効利用を進めているところです。一方で、補助事業を受けて購入した方に継続して実施していただくことが課題であると認識しており、引き続き、使い方のポイントの啓発等による支援策を講じてまいります。（環境都市推進課）</p>
42	<p>P 2 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未利用資源の有効活用・資源循環の推進など項目別に削減目標を示し、トータルとしての将来目標を掲げるべきでないか。</li> </ul>	<p>項目毎の削減目標の設定については、トータルの将来目標を達成するために必要かつ合理的な項目毎の削減目標を設定することが困難であることから、設定しないこととしたものであります。</p> <p>項目毎の取組施策の評価については、進捗管理において状況を把握し、取組が進んでいるか否か点検することにより、目標達成を目指してまいりたいと考えております。（環境都市推進課）</p>

## 第5章 計画の進行管理

No	意見	意見に対する市の考え方
43	<p>P 2 9</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルによる進行管理は非常に大事なことだと思いますので、毎年度1回の公表ではなく、年度2回（半期毎）に公表はできないでしょうか。</li> </ul>	<p>PDCAサイクルによる進行管理は、一年を通しての実績による点検が必要であると考えており、毎年度1回の公表とすることとしております。</p> <p>なお、食品ロスの発生については、季節毎の状況が異なることから、実態調査も季節毎に原則年4回実施し、その都度公表することとしております。その他イベント等においても、実施の機会をとらえて状況を公表してまいります。（環境都市推進課）</p>